

ルネサス、2017 年度第 2 四半期の業績を発表

～需要堅調、インターシル統合寄与もあり、第 2 四半期の売上は対前年同一期間比大幅増収、売上総利益率・営業利益率も共に改善～

2017 年 7 月 28 日

ルネサス エレクトロニクス株式会社

- ・2017 年度第 2 四半期:半導体売上高は 1,943 億円となり、前年同一期間比 31.7%増収、前四半期比 12.6%増収。Non-GAAP ベース⁽¹⁾の売上総利益率は 45.7%となり、前年同一期間比 1.4 ポイント増益、Non-GAAP ベースの営業利益(率)は 290 億円(14.6%)となり、前年同一期間比で 82 億円(0.9 ポイント)増益。
- ・2017 年度第 3 四半期の見通し:半導体売上高は前年同一期間比 29.4%増収の 1,919 億円を見込み、Non-GAAP ベースの売上総利益率は前年同一期間比 2.9 ポイント増益の 45.5%、Non-GAAP ベースの営業利益率は前年同一期間比 4.7 ポイント増益の 15.6%を見込む。

ルネサス エレクトロニクス株式会社(以下 ルネサス)は本日、2017 年第 2 四半期(2017 年 4 月 1 日～6 月 30 日)の業績を発表しました。ルネサスの代表取締役社長兼 CEO の呉 文精は、次のように述べています。

「ルネサスはこれまで、売上増と費用抑制によって、継続的に売上総利益率および営業利益率を改善させてきました。2017 年第 2 四半期の半導体売上は、自動車や産業分野での強い需要を主な背景として、前年同一期間比で 31.7%増加しました。また、インターシル社の統合や前年同一期間に発生した熊本地震の影響が解消されたことも売上増に貢献しました。続く第 3 四半期においても、前年同一期間比での半導体売上、売上総利益率および営業利益率の継続的な成長を見込んでいます。」

四半期業績概要(億円)

Non-GAAP ベース	2017年 第2四半期 (2017年4-6月)	2017年 第1四半期 (2017年1-3月)	2016年 第2四半期 (2016年4-6月)	前 四半期比	前年 同一期間比
売上高	1,981	1,776	1,520	+11.5%	+30.4%
半導体売上	1,943	1,726	1,475	+12.6%	+31.7%
売上総利益率	45.7%	45.5%	44.3%	+0.2pts	+1.4pts
営業利益	290	291	209	-0.2%	+39.2%
営業利益率	14.6%	16.4%	13.7%	-1.7pts	+0.9pts
EBITDA ⁽²⁾	473	462	354	+2.5%	+33.8%

GAAP (日本会計基準)	2017年 第2四半期 (2017年4-6月)	2017年 第1四半期 (2017年1-3月)	2016年 第2四半期 (2016年4-6月)	前 四半期比	前年 同一期間比
売上高	1,981	1,776	1,520	+11.5%	+30.4%
半導体売上	1,943	1,726	1,475	+12.6%	+31.7%
売上総利益率	45.7%	45.5%	42.8%	+0.2pts	+2.9pts
営業利益	188	255	186	-26.3%	+1.2%
営業利益率	9.5%	14.3%	12.2%	-4.9pts	-2.7pts
EBITDA	460	456	331	+0.8%	+39.1%

- (1) Non-GAAP ベース: 非経常項目その他特定の調整項目を除いた業績。2016 年 12 月期までは RSP(ルネサスエスピードライバ)にかかる売上および損益の影響、LTE モデム事業にかかる損益の影響、作り貯めの損益の影響を控除。2017 年 12 月期からはインターシル社の買収に伴い、のれんの償却額、買収した無形固定資産の償却額、インターシル社の買収関連費用、株式報酬費用および株式売出し関連費用を除外。(参考: 2017 年度 第 2 四半期の作り貯めによる損益影響は営業利益に対し 0 億円) Non-GAAP ベースと日本会計基準(GAAP)間の調整項目は 5 ページ参照。
- (2) EBITDA: 営業利益+減価償却費+長期前払費用償却額。日本会計基準ベースでは、のれん償却額も含む。

プロフォーマベース⁽³⁾の分野別四半期半導体売上

2017 年 2 月に買収完了したインターシル社を統合し、三事業本部体制に再編したことに伴い、ルネサスは、2017 年度第 2 四半期から半導体売上の開示情報について、当社グループの主要な事業内容である「自動車」、「産業」、「ブロードベースド」およびこれらに属さない「その他半導体」に変更しました。

分野別半導体売上 (億円)	2017年 第2四半期 (2017年4-6月)	2017年 第1四半期 (2017年1-3月)	2016年 第2四半期 (2016年4-6月)	前 四半期比	前年 同一期間比
自動車 ⁽⁴⁾	1,029	969	845	+6.2%	+21.8%
産業 ⁽⁵⁾	540	506	454	+6.8%	+18.9%
ブロードベースド ⁽⁶⁾	363	330	311	+10.0%	+16.7%
その他半導体	11	8	10	+31.0%	+8.9%
合計	1,943	1,813	1,620	+7.2%	+19.9%

- (3) プロフォーマベース: 2017 年 2 月 24 日に買収完了したインターシル社の売上について、買収完了以前も当社売上に加算した試算ベース。
- (4) 自動車: 「車載制御」および「車載情報」向けにマイクロコントローラ、SoC(system-on-a-chip)、アナログ半導体、パワー半導体を中心に提供。
- (5) 産業: 「スマートファクトリー」、「スマートホーム」および「スマートインフラ」向けにマイクロコントローラおよび SoC を中心に提供。
- (6) ブロードベースド: 幅広い用途向けに汎用マイクロコントローラおよび汎用アナログ半導体を中心に提供。

2017 年度 第 2 四半期の業績概要 (Non-GAAP ベース)

2017 年度第 2 四半期の連結売上高は 1,981 億円となり、前四半期比 11.5%増収、前年同一期間比 30.4%増収となりました。半導体売上高は、1,943 億円となり、前四半期比 12.6%増収となりました。前年同一期間比でも、当社売上からインターシル社の売上を除外したルネサス単体ベースでの堅調な成長とインターシル社の統合および前年同一期間に発生した熊本地震の影響が解消されたことにより、半導体売上

高は 31.7%増収しました。プロフォーマベースの自動車向け売上は、車載制御および車載情報ともに強い需要が牽引し、前年同一期間比で 21.8%増収しました。産業向けおよびブロードベース向け売上は、FA (ファクトリーオートメーション)や家電、アナログ半導体での強い需要を主要因として、前年同一期間比でそれぞれ 18.9%および 16.7%増収しました。

第 2 四半期の Non-GAAP ベースの売上総利益率は 45.7%となり、当社予想よりも 1.8 ポイント上回りました。前四半期対比では 0.2 ポイント増となり、前年同一期間比では大幅な売上増とインターシル社の統合により 1.4 ポイント増となりました。

第 2 四半期の Non-GAAP ベースの研究開発費 (R&D) は、前四半期の 270 億円および前年同一期間の 244 億円に対し、335 億円となりました。売上高 R&D 比率は 16.9%となりました。

第 2 四半期の Non-GAAP ベースの販売費および一般管理費 (SG&A) は、前四半期の 247 億円および前年同一期間の 221 億円に対し、280 億円となりました。売上高 SG&A 比率は 14.2%となりました。

季節的な増加影響を除くと、OPEX (R&D や SG&A などの事業運営に必要な費用) は半期ベースでは、長期財務目標の範囲内でコントロールされています。

第 2 四半期の Non-GAAP ベースの営業利益は 290 億円、営業利益率としては 14.6%になり、第 1 四半期の Non-GAAP ベースの営業利益 291 億円および営業利益率 16.4%からは減少しました。Non-GAAP ベースの営業利益率は四半期ベースでは OPEX の季節的増減により変動しますが、前年同一期間比では、売上増と OPEX の規律ある運営の継続などにより、82 億円 (0.9 ポイント) 改善しました。

第 2 四半期の Non-GAAP ベースの親会社株主に帰属する四半期純利益は、昨年発生した熊本地震に関する受取保険金などにより特別利益を 144 億円計上したことで、373 億円となりました。

第 2 四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、595 億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは 281 億円の支出となりました。その結果、フリー・キャッシュ・フローは 314 億円となりました。

第 2 四半期の有形固定資産 (生産設備) および無形固定資産の設備投資額は、242 億円となりました。これは、これら資産の期間中の投資決定ベースの金額であり、キャッシュ・フロー計算書に記載の現金支出とは一致しません。

自己資本比率は、2017 年 3 月 31 日時点の 44.5%に対し、2017 年 6 月 30 日時点では 46.2%となりました。D/E レシオ (グロス) は、2017 年 6 月 30 日時点で 0.54 倍となりました。

2017 年度 第 3 四半期の見通し

2017 年度第 3 四半期は、為替前提を 1 米ドル 110 円、1 ユーロ 125 円として、前年同一期間比 29.4% 増の 1,919 億円の半導体売上高を見込みます。Non-GAAP ベースの売上高総利益率は 45.5%、Non-

GAAP ベースの営業利益率は 15.6%を見込みます。

第 3 四半期の有形固定資産(生産設備)および無形固定資産の設備投資額(期間中の投資決定ベースの金額)は、売上高比で 18.7%となる見込みです。

以上

(ご参考)

四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書については、本日発表の「平成 29 年 12 月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照ください。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

<この発表に関する報道関係からの問い合わせ先>

ルネサス エレクトロニクス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

電 話 03-6773-3001(直通)

E-mail pr@renesas.com

ルネサス エレクトロニクス
Japan GAAP(日本会計基準)とNon-GAAP間の調整項目

(億円)	2017年 第3四半期予想 (2017年7-9月)	2017年 第2四半期実績 (2017年4-6月)	2017年 第1四半期実績 (2017年1-3月)	2016年 第2四半期実績 (2016 年 4-6 月)
------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	------------------------------------

売上高	1,952	1,981	1,776	1,520
半導体売上高	1,919	1,943	1,726	1,475

GAAP 売上総利益	888	905	808	651
GAAP 売上総利益率 (%)	45.5%	45.7%	45.5%	42.8%
作り貯め	-	-	-	+23
株式報酬費用 (COGS)	+0	+0	+0	-
Non-GAAP 売上総利益	888	905	808	674
Non-GAAP 売上総利益率 (%)	45.5%	45.7%	45.5%	44.3%

GAAP 営業利益	207	188	255	186
作り貯め	-	-	-	+23
株式報酬費用 (COGS)	+0	+0	+0	-
のれんの償却額 (SG&A)	+88	+87	+29	-
インターシル社買収関連費用 (SG&A)	+1	+4	+5	-
インターシル社買収関連費用 (R&D)	+1	-	-	-
買収した無形資産の償却額 (SG&A)	+2	+3	+1	-
株式報酬費用 (R&D)	+1	+3	+0	-
株式報酬費用(SG&A)	+5	+4	+1	-
株式売出し関連費用 (SG&A)	-	+2	-	-
Non-GAAP 営業利益	305	290	291	209
Non-GAAP 営業利益率 (%)	15.6%	14.6%	16.4%	13.7%